

授業 科目名	【G】	教養講義（メディア論）	区 分	開講年次	【G】1	単位数	【G】2	
	【H】	教養講義（メディア論）			【H】1		【H】2	
	【I】	教養講義（メディア論）	選 択		【I】1		【I】2	
科目区分	基本科目							
授業形態	対面開講							
担当形態	単 独							
施行規則に定める科目区分又は事項等								
サブ タイトル	デジタル時代のメディア地図：新旧メディア交差				担当者	見崎 浩一		
授業概要	【概要】	<p>インターネットの登場と進化により、メディアは激変し、今も変化を続けています。この授業ではSNSを中心としてネットメディアに焦点をあて、日常に密着したソーシャルメディアの魅力や課題、双方向コミュニケーションの新たな可能性を具体例を通じて議論します。一方、テレビや新聞などの伝統的なマスメディアについては、歴史的発展の歩みと現状を踏まえ、これからのあり方を展望します。ネットメディアと伝統メディアの学修を通じて、メディアの未来を多角的に考察します。</p> <p>【実務経験を活かした授業】 新聞に加え、テレビやインターネットなどの多メディアでの実務経験を有する教員が、メディアの進化とその社会への影響について学生たちと探求します。学生たちはマスメディアの変容や将来の方向性についても考察し、自らのメディア利用について考え直す機会も得ます。</p>						
	【到達目標】	<p>① メディアに関する基礎的な理論・概念・歴史の変遷を説明できる。 ② マスメディアとソーシャルメディアのそれぞれの特徴・特性の違いと、それぞれの社会的機能を理解する。 ③ プラットフォームやAIが情報流通に与える影響と課題(アルゴリズム、アテンションエコノミー等)を理解する。 ④ ソーシャルメディアのコミュニケーション構造を理解し、メリットとリスクを踏まえて主体的に活用できる力を養うことができる。 ⑤ 情報環境における倫理的課題を認識し、メディア・情報リテラシー(MIL)を活用できる。</p>						
履修条件	特にありません。							
アクティブラーニングの方法	【－】	事前学習型	【－】	反転授業	【－】	調査学習	【－】	フィールドワーク
	【－】	双方向アンケート	【○】	グループワーク	【○】	対話・議論型授業	【－】	ロールプレイ
	【－】	プレゼンテーション	【－】	模擬授業	【－】	PBL	【－】	その他
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP(ディプロマ・ポリシー)①	－ (当てはまらない)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)②	○ (やや当てはまる)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)③	◎ (よく当てはまる)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)④	－ (当てはまらない)						
他科目との関連性	特にありません。							
教科書	授業中に、適宜、資料を配布します。 また、必要に応じてプリントを配布します。							
参考書	藤竹暁、竹下俊郎(2018年)『図説 日本のメディア[新版]伝統ディアはネットでどう変わるか』(NHK出版) 藤代裕之編著(2019年)『ソーシャルメディア論 つながりを再設計する(改訂版)』(青弓社) 白土由佳(2024年)『はじめてのソーシャルメディア論』(三和書籍)							
評価方法	授業ごとの成果物や課題等を点数化して、加算方式で評価します。 各授業の振り返りと学習の成果物(15%)、授業演習課題(30%)、アクティブラーニングへの取り組み姿勢等(25%)、レポート1～3本(30%)							
フィードバック方法	Google Classroomを使用し、提出されたリアクションペーパーや課題等について、コメント等のフィードバックをします。							
評価基準	上記授業内容について、これをよく理解し、適切に表現できた者にはその程度に応じて「S」または「A」とする。単元の内容についての理解や表現に何らかの不適切な点がある者はその程度に応じて「B」または「C」とし、単元の内容についての理解自体が不十分な者はその程度に応じて「D」または「E」とする。 なお、試験欠席など、評価不能の場合には「F」とする。							

授業 科目名	【G】	教養講義（メディア論）	区 分	開講年次	【G】1	単位数	【G】2
	【H】	教養講義（メディア論）			【H】1		【H】2
	【I】	教養講義（メディア論）	選 択		【I】1		【I】2
授業回数	授業内容						
1	ガイダンス イン트로ダクション：インターネットとの向き合い方 予習： メディアの概念と基本的な定義を確認する(60分程度) 復習： Google Classroom課題に取り組む(120分程度)						
2	メディアとは、メディア論への招待：理論と概念 予習： 普段利用するメディアを5つ挙げ、生活にどう影響しているかを考える。(60分程度) 復習： Google Classroom課題に取り組む(120分程度)						
3	メディアの変遷：歴史と変容 予習： 新聞が普及する以前、人々はどのように遠くのニュースを知ったかを調べる。(60分程度) 復習： Google Classroom課題に取り組む(120分程度)						
4	デジタル社会の進化と経済：ネット史 予習： 無料で使えるアプリがどのように利益を出しているかを調べる。(60分程度) 復習： Google Classroom課題に取り組む(120分程度)						
5	情報の送り手：ニュースと広告の境界 予習： ニュース記事と記事広告を見比べ、書き方や配置等の違いをまとめる。(60分程度) 復習： Google Classroom課題に取り組む(120分程度)						
6	身近なソーシャルメディアとコミュニケーション：社会・受容 予習： 1日のスマホ利用時間を確認し、何に時間を使っているか把握する。(60分程度) 復習： Google Classroom課題に取り組む(120分程度)						
7	プラットフォーム社会の構造：デジタルPF研究 予習： 普段使うアプリの「利用規約」、読んでいない場合はその理由を考える。(60分程度) 復習： Google Classroom課題に取り組む(120分程度)						
8	アルゴリズムと情報の選別：データ・AI 予習： YouTube・TikTokのおすすめ欄が友人とどう違うか比較する。(60分程度) 復習： Google Classroom課題に取り組む(120分程度)						
9	メディア倫理と社会的分断：心理・政治 予習： 「自分と反対意見」を持つ人のSNSアカウントを探し読んでみる。(60分程度) 復習： Google Classroom課題に取り組む(120分程度)						
10	オーディエンスと参加型文化：受容・文化 予習： 好きな作品やアイドルの「ファンによる活動」事例を探す。(60分程度) 復習： Google Classroom課題に取り組む(120分程度)						
11	ソーシャルメディアの課題と倫理：炎上と誹謗中傷 予習： 「SNS炎上」について調べる。(60分程度) 復習： Google Classroom課題に取り組む(120分程度)						
12	SNSコミュニケーションとリスク：デジタル演習 予習： 「炎上」事例を一つ調べ、きっかけ、拡大理由を調べる。(60分程度) 復習： Google Classroom課題に取り組む(120分程度)						
13	メディア・情報リテラシー：メディア教育 予習： 日本ファクトチェックセンター（JFC）の公式サイトを閲覧・通読する。(60分程度) 復習： Google Classroom課題に取り組む(120分程度)						
14	未来のメディア①：メタバースと身体性の拡張（仮想空間体験） 予習： メタバースの特徴をまとめる。(60分程度) 復習： Google Classroom課題に取り組む(120分程度)						
15	未来のメディア②：先端技術と未来まとめ（レポート化） 予習： 自身の生成AIの活用歴を整理し、その利点と懸念点をまとめる。(60分程度) 復習： Google Classroom課題に取り組む(120分程度)						
その他	この授業ではGoogleClassroomやGoogleフォーム等を活用します。課題や演習等の提出物はスマホではなく、パソコン活用を強く推奨します。情報環境の変化、テクノロジーの進展等によりシラバス内容を入れ替え等することがあります。 新聞の1面に掲載されている記事、あるいはNHKニュース(19時か21時)、あるいはインターネットのニュース(Yahoo!ニュース)に1日10分以						